

「昭和大学発達障害医療研究センター」設立について

1. 設立趣旨

大人になるまで医療機関につながらない発達障害群への関心が高まっており、新聞やテレビの特集を目にすることも増えた。烏山病院では2008年度から自閉症スペクトラム障害(以下ASDとする)の専門外来とデイケアを開設し支援を行っているが、専門を標榜する医療機関も研究機関もほとんど無い。

昭和大学では、成人期の発達障害者を対象とした研究、治療、リハビリテーション(社会復帰支援)の各機能を統合した、日本でも唯一とも言える成人対象の発達障害研究拠点「昭和大学発達障害医療研究センター」を設立する。

2. コンセプト

- (1) 成人期の発達障害研究を行う最先端の研究機関
- (2) 研究、治療、リハビリテーションの機能ごとの多面的な取組み
- (3) 研究、治療、リハビリテーション各部門の連携強化による患者負担の軽減、業務の効率化

3. 発達障害医療研究センターの各機能

(1) 研究部門

脳画像研究センターを移設し、機能的MRIを利用した脳画像による病態解明、アイトラッカー(視線計測)などを用いた社会的行動解明などの臨床研究を行う。

(2) 診療部門

青年期から成人期を主な対象とする外来診療部門では、ASDを対象にした初診、再診を行い、心理士による発達有料相談、個別カウンセリング、心理発達検査等を実施する。さらに、成人期発達障害でASDと並び注目されているADHD(注意欠陥・多動性障害)外来や思春期、ひきこもりへの対象拡大を検討する。

(3) リハビリテーション部門

従来からのASD専門プログラム(水曜クラブ、木曜クラブ、土曜クラブ)に加えて、あらたな支援プログラム(集団療法)を計画する。またADHD外来の開始に合わせて、試行的に「ADHD支援プログラム」の開発、実施を計画している。

当事者支援と合わせて家族に対する支援も重要であるため、家族会「烏山東風の会」支援、家族のつどい開催、家族心理教育などを実施する。

(4) その他

支援者ネットワーク「(仮)成人発達障害者支援研究会」設立する。成人を対象とした診療、支援は未だに少数であり、各支援者が手探りで実施している現状がある。烏山病院の発達プログラムを見学した医療・支援関係者や、これから支援を始める方を対象に研究会を発足させ、情報交換や連携強化を行う。



4. 設立場所

昭和大学附属烏山病院入院棟2階

昭和大学発達障害医療研究センター概念図